安樂問辯

全

口 9
1341

門口仁
1341

神田表猿町堂一自捨蔵
三河屋幸三郎

安樂問辯序

乾の道ハ易ふして。坤の理ハ簡なり
と誠なるかな。作の造作もなく。出来る
ものなれば。ふるき名ちゝ。ふせ造作
なりと人も乾ハ上に。坤ハ下に。海ハ水
ゑゑて。ひくあるハ。ひくゝ。ちゝ。ふ
ひくゝなるハ。ふ。ふ。いふこと
なれども。ふ人の。ふ

かゝてせれつさの德あり。ぬるゝ
衆人ぬるゝをうらやゝがりてうつ
むくゝ似ゝら情しゝ心の狂濃なり。
狂濃とハうまゝ教をかゝるいやし。
このまゝ形欲をゝてだつゝひを
いかゝ。御ゝうゝ心けバ。絵ゝハ。足ゝ
ゝへゝゝのゝゝ。御ゝゝゝゝゝゝゝゝ
御下ゝなりて。世ゝ。目ゝれ耳ゝれ。

鼻舌へ義ゆくゝゝの。教ゝ
聖人ゝれを御ゝおゝ形ゝたまひ
教てゝゝゝゝゝゝゝ。安ゝ
ゝれゝゝれバ。色氣の為ゝ
推。ゝやゝゝゝめゝて。ゝゝゝ
ふゝ。遊ゝゝゝゝゝ。聖人ゝハ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

たまたまこの乃ぶぐらへめく
ゝ志をあつるのこ

安永八年
亥二月

坊庵

安樂問辨

一日客ありたづね来て。始学の人進ぐ
問人の道を学ぶハ何のためぞ
答。あ樂なるんが為なり
問いわるをうこれ。あ楽とも
答。なん即あ楽なり。あ楽ハなんのせれつきこ
問。いうるとうぐるこ
答。人欲即くるこなり。人欲なきをわるこ
ぐ。他をども。欲なんくるこぐハ害あり

なんぞ省こと。私の身体をもとめんと欲と
名づく。人欲ハ内こゝなんらけぬもの〳〵ゝ〳〵むく
同安楽を求とするハ。佛者の学とあらばや
清華〳〵。安楽ハ清土者流を
観経〳〵もりて。善尊和尚の往生あく楽国乃
偈を称ふ。多のものをさく。儒道〳〵ハ
まをきゝ
善事多多あれども。をくこゝける所をもく
〳〵ゝ〳〵論語〳〵。子曰脩己以敬脩己以安

百姓と又曰飯疏食飲水曲肱而枕之楽亦
在其中矣不義而富且貴於我如浮雲又曰
仁者安仁知者利仁又曰知者楽仁者壽な
どゝを叩れゝ。又曰内省不疚夫何憂何
懼ともあり。これハもゝ〳〵ゝ〳〵かも私欲を
せざる時ハ心内やゝ〳〵ゝ〳〵ゝ恒もゝく憂
もゝく。大あ楽なるべし。
孟子曰仁人之安宅也と又曰萬物皆備於
我矣反身而誠楽莫大焉とゝれかなんの生

生つる。あらゆるなるもの。ひとり後なり。人
のなんハ一切衆おのの理。何ひとり不足なく後
ゝを居るゆへ。身ゝうちかへりて。なんの通ゝさへ
身を動さゝるゝけば。それが生れの後の身体へ
そこなひ誠といふなり。そのうりていある。後をかも
あやまるゝハ身なんもまた。大あらなるゆへ。だのを
これ大なるハ。例せば後ひゝなり。
言句ハ老佛に似るゝ。多あるべし。百のゝ
四不異なるゆへ。既ハ矣あれども。おそれハ傷老仏

ゝても手を拍掌楽のがなし
問。極あ楽ゝハいづくしてなるべき
答。先自己のなんを知べし。おゝいなるべ
我が生をつるのなんハ。元来あ楽あり
安楽ハ求めゝ求めゝ求めゝ百の
求めるゝ附生をつるの安楽あり
破ゝなんゝかるべし。我が身ゝ腔おして
も。出来ておさに入ゝ悲ひとこゝ拝お
手金しいゝゝゝ

きてくるが、まことの楽しいふものもなくこれ、まことのあらたなるあらはしいふ楽がしらいふこゝろあるべし。時あのいとなむのつまこゝろ指くのゆを求め念を忘志却せしゆゑあるこゝをんくえ来あ楽ゞせをつゝ明らといふ事を知らべし一所懸命をなりてゐれば天心のまゝ我身といふものゝ我分なるれば万の求めゝ求めゝさゆゑあ楽ありといふ理明らに通ずるなら我

といふものゝえ来ハなけれども分稽あるいふ已ゝ知ぬまくゝ悔こゝろくしものなりはんあをあしを作り知せバ分ゞ也来るゆゑそれもらゞゝ知るゆゑひくゝ知らくゝ知らるゝを安楽ゝくしなり同なんを知をバ理解明みて志ゝ身猪ゝの求めをやはるゆゑ心のくゝをのゞ作てあ楽なるゝけハきくゝ理まで

人皆七情あり。ふと心七情を引除け
て。槁木死灰のごとくうてあるもあるべ
からずもたとひ知識を知ることあるの
あるまじきなる間ハ中〳〵及びがたきうす
と思ふべきハいづれを示偽仏も知を
らふ情を捨て法沼のごとくなるをもつき
らふ〳〵なるべきハ。知も情もさらでて安乐
うなるべきや
答。儒ハいかをさらあり。老仏ともに自性

の真空なるの名知をそなうて。土塊木石の
ごとくなハ。故人のあるひ不あり形気の外
天理のなんとそこふ所ハそを知者を名
知り。悪を悪と知り。善を善と
悪をこそ哀び哀ひべきを哀び
を懼を。恥すべきを愛し。愛ひべきを愛
欲すべきを欲を。かくの人ハ真性ハ。そに妙あり
同者を者をうてすみ。悪を悪をうて正け

情欲を制するハ甚難しなり。中人以
上の資質の人ハ七情をも気まゝにせず我
欲をほしゝまゝに者を押へいやなる事をも勉て
学ぶまもなくしゝ今る仕の我身ごとき
下劣の身にてハ如何ばかりの一向なびくべき
しかるべきや
答ふ人ごとにひとしきもあるべし。かゝるなんを知る
を。学のすゝめなり。家貧しく学ぶ道を知れば。唐太
宗李世民の如く英雄なりまさるべし

なし。心猪をこゝろをあらく知るハいふ
及ぶべかゝ知るくも。故ゝこゝろをひて
若りをもいとゝあ志なる形をこゝ犯を強
をいふ。或所。壮年の男あり。しが
しある人の娘美目こゝろをぐゝ。ハ彼の
女を掛来し。何ぞ。女をひとゝ分
彩ひ。仮宜なくし。只者も暴び後の
嘉やひとゝきあく。欲さくしゝ。深くとひ
入る志やこゝ犯。仮をひく文ゝ

迫りくれば女こもれば揚くの毒なる
殺生の苦行をせしこれ〇のものをつて
ふしぎ〇あひこんといひうつ
くりけるバ彼男ゆくいかりて報
復苦痛のいとひなく〇ちつる通ものより
なく殺ひ毒くく術くく女をのくちを通
くなりぬるハ〇ゆく仏道の法をいりこの
人の苦りを厭めく殺へくこうばるして
くれバ苦りのたぐくひくあるべきや

又さらにこうなけもどこ世ろをんるにこが
歌のぬむくこハこをも裸くなりて朝
夕のものくく含くべしてもも他人くいや
しめくも獨孫をかぐめ物をもひ面目もかき
くべ恥辱も怪我もかへくくべ或ハ酒をぬくく又ハ義絶くくべ或ハ情欲し
をぬむハ人目を恐べ和も暴べ行くんをいく
ま絶おくくハくものも食べあ酒ハ
分の骨をも折ぐべ或くくハくけべて

喝しり血をもせくこと是夜水をひうして器
蚊蝱なんぞ責にあひくゝ事もせじ凡是
なれ影ひきげくして鼠ともびかく
平常の所作ちこと是をこれ心づもも無雜
作くなくべきまもも思ひもぐそれを
もいくそびみすれ人家人をあくそれなりかく
なれなれ合せてこそべし人の道こそ
ひとりの世に習うあ者ハそれなれ雜
義ハなくそれなりくそ人器量

不同あをハ十分道に合ふ人もあをハ九分
八分合ふもあるべし乃至一分一厘にても
合ハそれなれ体なりなるをせと
の数ハなし已ゞ器量お意ぬ為なく
つくひをハ是をぶ人数の間に入れ紀ハ
いくゝ下拓下劣の人にても下拓ハ下拓下
劣ハ下劣なりくゝ道ハ学ばくそれなり
同分なれ器量をゞけ必生るくそして熟れ
ばくくの一種少へくまでも劣をたく

しまば。源の仏ハあんらくあるべしとあるべしされど
あるべし。鼻をたくやうに。窮屈なる行ものを
勉てこそ。あるべし
若その窮屈なる行をふハ。苦しく乱がましふ
もれなり。何もうまくすることなるべしふ
事なるハあるべしなるものをえべゆすぎき
こゝ。ばこそうべ。いふまじきこゝろをいこべせまじ
き事をせれこのふ。ありたひたをそなべ
わべこゝろ。ふもべ。さきべきをし

てこゝるべきやゝ。大このあ。さるハ。道を勉め
ものも。せるべこゝろきにせあなり。きべあ
きるものをえくあるハ。逆のゝ。たをそなびて
こゝべのおきやゝにこゝものにべずや
窮屈なる行をふ。気ばをたくていこゝ。変
ゝ。貧窮なるゝ人。二ゝるも精を日ばべく時
何しやゝ。番ば食ひこゝやゝ思ひて。精
進日のゝるを待べ。元来貧なるハ
精をしゝあ日ゝ。番ハ食ひべも忘れ

て是の家で居るとハ。何ともなきこと。合ふ事
なるべしとふ気ゐを。忘れそめゆくなり。なん
を知るとハ。此気ゐを用めゆく。常となく。法
とゐりやすし

問。そも人欲の気ゐをすてきるゐハ人のなの
とハ。なくゐりく。活くゐ学ばるも。冷ゐ記
やうに思ふを。道の志ゐ変ずること
言。これなんを知るゐ。ぶ法也の能ひなり人欲の
気ゐ。中人以下ハ去ゐ。能ずとも

なんを知るとハ。前くいふごとく。安楽の実体を
知るゆく。人欲虚偽の心ゐ。なんを去
へるゐ。やうやくなるゐ。たいしても。別深人
欲の気ゐ。ありて。何とやこの方へ引き出
これなんの光ひかるゐ。なりゐ。ぶりなく日く
内こハ明徳磨の功を用ひ。あくハ克己戒
慎の力を加せハ。いくなく。なんのあ楽ハ
ゐくやうに。なく。人欲のゐ。深まりく成
ゆくなり。楽ハ名そのあるゐ。遠ひあ

て。蠱毒の虫ハ。樣々の。法術をかまへて。
匈奴の獄ハ。法令を。嚴にして。酒を飲ごとく。
羅姚といつる。婦女。ゆゑなくして。生ハ。
てもげしきやうや孟子曰不仁者可与言哉安
其危而利其菑樂其所以亡者不仁而可与
言則何亡國敗家之有とこれ小人のあるなり
必るべきもんあるべやや
問。これハ。早芳のもの。かてゝ。ものも。
人。聖人。佛の。教を。口にハ。唱へ。のゝ。
のゝ。いくども。ものを。
ものを。ものを。
いつものを。我もものを。
氣味ありけれ。
かゝるべけるを。
言。言うを。これハ。
ざるきの。
かゝるべし。
のゝ。

かしも特とあるふ御門ふり。中門岐路
しく百の弟子ふく。生涯ハいふ及ばぬ素
きぐも。何の障もふく。あ稱こぐこそと
思ふ百ばうなる。そもそも稱ていぐこに一人
大勢れるぐもと集めて。ひすもの
わんこそのぐも伝る岐く。ぐこそこと
思ふぶし。化金ふし。人ハ重人佛こなく
そもふぐも小人ハ人間生のなくふり何こその
ぐもに合あと年岩に神で往とりぐこそ

業ふそと。そ作とあこでぐこそこに外生ばふか
ぐ。除こ制し除こそ修めバ獨ぐぐこふ
やぐこむ。あこに出れバこそ行ぐ時ぐ
ばこ。戯ぐ難あくバこれハこぐ呵こ
面にて小出居生バ徒ぐ何こぐ世ぐ
ふも中ぐ世ぐ。世伝とやこ通生ハぐもふこ
ハ。唯彼人ぐ。あとくこやこそこぐれこぐ
それハやあ。それハなふの。ふせりぐ堂ぐ呵こ
出こぐ。ふこ化のこぐこ男ぐ。こふものふり

年逢く。凡人のほかりへバ。食ときき。食バ復
病して。臭さあ。終日の程ひあるべ。ふくこいすのも
ふまにして。拓ちせもバふくれて。食も食べ
復拓ぶく目をまくし。終日程ひなべ
ふくも。ほくものぐりまく。こ海りまにれバ
ほ足ず折。溺死もりぐこして。終日程ひ
なべ。飯ぐい。食ぐい。ぐい。ぐい。義ぐい
溺ぐいぬして。そのまにして。飯ても。理
我も陰もなくされなまバ。ふくれぐも。それ

なりあてハ。あくるこあ極あめゆへなりを
いふを。思ひ知るあり。これハ志知るやう
なるのなまども。山所晩。胃髓。徹しあバ
聖人佛の所悪。あ。有ぐく思ふや
うもなるべくさう。難こを思ひるべし
同道をのぶにハ。なんを知るを。そくすう
うをあくべられど。書籍くしくハ。
とハいられまぐ
苦いうも。学問の年ハ書を磨べくあ。

まことに。古くのそのいふものと。おもふべし。孟子の曰人之有道也飽食暖衣逸居而無教則近禽獸聖人有憂之使契爲司徒教以人倫父子有親君臣有義夫婦有別長幼有序朋友有信舜命契曰百姓不親五品不遜汝作司徒敬敷五教在寛と。これらをそなぶのけだえなり。道ハおのゝにあるべし。新くありとみるべしとゝ。ゝて。孫ゝ。下ゝて皆ゝ。夫婦中ゝくゝゝて。孔子ゝ。

ゝ。明ハ。さゝひよ。夫婦ゝくゝのごくゝ。他をとゝあゝず。なんのまゝつきなりそれゆゑ。ゝ。ゝけハ。中ゝくゝなりて。ゝくゝひゝ。なんに。忠孝の百行ゝゝゝ

堯舜の門人の書あるものをこそ。堯舜の事跡を考へ。聖書籍は始まり。經書といふ。聖人の言ひをもつて。人を治め。人の言ひを聞くこと。あつめものなり。それば書籍をも用ゆべき事なり。子曰弟子入則孝出則弟謹而信汎愛衆而親仁行有餘力則以學文とこれ人のふるる所。先人孝の事へを大切にしるべく。忠義をあげ。ちかつく

却つてつくしをあひく。信あるべく。押なべて人を愛し。場まだ。仁者の徒あるべきなり。意はうべく。所迫べし。分の分をわきまへ。凡色色様々様々ひ。凡色色様々様々ひ。諸いろもあるべ。そ門人。居せばして。聖書籍書籍をもあるべ。多倫をいふ。西はけ。せとしの多ひしるなり。此文書しのまひしは。聖書書のものあく。何ぞ辞文辞の書とあるべ。又曰君子食無求飽居無求安敏於事而慎於言

就有道而正焉可謂好學也已と。此章のこゝハ
乃至そのふるものハ。のみのみ。のなり。先第一合
ものゝ。衣ものゝ。飲食もの。おなじく免ものあ
一向志なきものゝふるまひなり。学問乃
志あるものゝハ。第一つゝく。新しきもの。こゝろの業
分の職分を勤めしゝ。ものゝ。勤め免
に。あるまじきなり。なきやうにつゝ。言
いひるまじきやうにあるべし。此
やうにハ。行ひ我があらためなりこと

ものなきもの。乃あるものゝ。人を師匠とし活
きりのをハ。それ以ものゝ。まもりてもつゝ
ものゝ。のゝ。ものゝ。ものゝ。ものゝ。ものゝ。
ものゝをすることなれ。ものゝ。なりとのなまひ
しまなり。ものゝ。のゝ。ものゝハ。ものゝ。ものゝ。
ものゝ。ものゝ。ものゝ。ものゝ。ものゝ。ものゝ。
とハいへ。ものゝ。ものゝ。ものゝ。ものゝ。ものゝ。
ものゝのものゝハ。人ものゝ。ものゝ。ものゝ。
ものゝ。ものゝ。ものゝ。ものゝ。ものゝ。ものゝ。

同じく道は学ぶべしとも。たゞそうこう。
業をも。なおかつ。聖賢第一の人あり
なれの人は自分の道をまもるべし
いかでこの人は学ぶべしとも。ようべしや
言葉人は聖人ゝ。資人ゝ。聖賢ゝ
いくべし。聖賢人は我こゝろ。思
めぐらゆく。聖賢人なり我こゝろ
思ふは我の志なり。なりたひ
賢人なりて。なおまもるべし。聖賢乃

理を学ばずして。自己の女房子ども
聖人の細工をまもるべし。おこと
いふは行ずして細工の道をまもび
ものせとは無道ひあるとれなり。後
俳をもやといへるべきまていん
やんはなるべくのあるべく。おんこの者
をくし。家業もなおまするにいく人
器人なりと。なるとふ人物なるにあり
を人なりをもれなり。なるを孔子をもし

なふ愿人といふものなり。此愿人はものを
ゆふ所只己が欲をもとめたるまゝにて
生ずるものなれとも人あくいたるまゝ
きゞうあるはたゝくさうなり善人
あるしくハ惡人をいやめ善人のうち食せ
惡人をもとめうして惡の加意
人となりもとめうもあるもあ
安をもとめ一人もとめさるハ人なり
しいたるまゝ極とする面使ものといふなり

ひとり子貢問ふ曰ハ一句のうち告あるハ
善人なりしいたるものハ善人ならせ
ゆべしやと。孔子言て云ハ定めがた
しとのゝふ又問ふ曰ハ一句の中告惡人
なりしいたるものハいかゝ孔子
答て云ハ定めがたしとのゝふ
一句中の善人惡人を告人ハ善人
惡人ハ不善人とをしてをしへ
の。善人なりしとのゝふ

一拍子ぬく事ハなるあるものなり若人の好
ものハあるハこゝろのくいやるなりこれ実
実のたゝかひなり物うりて拍子
舞へもあくこゞ人ゝこゝろにあをはし
石ハやぶれ石をハやぶる波世ハらくする事業
にあぶなきハやぶる身をれ美事ゝまあるハ
やぶる人ゝおハうやぶるもけ世ハゝぶ御ゝ
繁昌ハしてゆく御れ手をなられバ我ハ去
でゝ道をまるべハ都ゝくゝゝゝ

なゝくゝ思ふ人をあふとれなられこれが前ゝ
いふ我とこゝろゝと思ふ人我のたゝ
愛恋こゝろ持ち紀るなをハ乃を学ばしゝく
ゝいつもうけ世ばゝ及ぶ沢なるもを世
道をそゝび人我の杉ゝうゝ世んゝてゝに
去ゝゝ紀人我なるゝゝ家体分のあるゝ
ゝてゝゝゝに人ゝ我ハ火ばゝゝ彫ゝ古色濁れをゝくゝゝと
しまふもこを火の角んをゝまふ事ゝゝ褒強

言教をつけくも悪礼をかつりのふとハ
礼ハ即天理なり。なんぞ背礼
あらんとふるり。なんぞ背礼
気なりとぞ。しかるに。ゆくゆくあるべつるもの
なし。あるべきもの絶ぬること知なり。後世
言教をくなるハ人我とふ。ただ私なり。聖人
の学問ハ。ただ私をとりてだるものを。む
来るべきなり。我ハあるべきもの。せば
ゑんぐるしくふ。人我をとりすてゝ。

の学問をとりてくぬ。ただ焼するこゝ矣
なぐ。何とたるに。ものにあるべや
ゆくいへど。それハあるべきもの。ふるもの
なり。学問を。くるべつ。滅化なるもも
あるものなりとも。ただものもあるべ。それハ
ただものなりぐハ。学問をとるべ
人といふものなり。ゆくゆくにゆくハむつ
聖人有憂之使契爲司徒教以人倫といふも
はたの程をいくものひてのものなりむつ

我こと年の喪を一年とあるべくハいぐあるべきことなり。孔子の日ふるの喪ハ世ろを思ひて節ハあるべ。今年ども其ことに冥楽どもをすまぶ。其ものあるべ。それかせざるべ。今ハ人ん〻やとく仰ぐもるべくバ稽ものもせ。ものを思ふ。人生れて父母の情〻抱れこと年のうちに若方の恩あれどそれゆへ。喪を。家ん〻ら勉るものなるべ。寧找ぐらを。親の恩を。

けさるべしやとく仰ぐもるべくバ稽ものもせ。ものを思ふ。人生れて父母の情〻抱れこと年のうちに若方の恩あれどそれゆへ。喪を。家ん〻ら勉るものなるべ。寧找ぐらを。親の恩を。めるひしなり。此一事ハ。聖人の学問ハ世ろの学問ハ。ものを思ふべし。恩ぐて道をものぶハ世ろの学問ハ。かるべて。さるものハあるべ人をなん学問ハ。ふしく。生れつきものゆく道を通ぐバ。あやく〻んあ学ぶ。ゆく〻学問を推ひて性理を明らめ。聖人の回位ものをひく。ん若を。のぐを。分の学を。まめうを。学古不易の大あ楽をとくあんくのものなりぐれバ。

まことにしてぐそくのものハ第本名氣
ちぶいさぶ人ハ君あり。氣ハ夫婦兄弟
朋友あり。人更ニハセバかならず。そもひ道を
まことにしたもあるべきなれ。ひとりをくハ
人がのうさぶ。我もこころをくれハ
いやでも道をしらくなく易の繫辭
ものも。百姓日用而不知もののまひなり
不倫無のあり世界なれハ君臣こと
道をまことにあ樂にあんかを勵

まうべきこと
問。生のあ樂ハきこと。死ぬ苦ハいかり
答。朝聞道夕死可矣といかりをきくハ
乃をきくしかくせんぬをあきらかにしるとふ性を
知るバ。死の理も分あるべし。かく程なる。の
まふ人の道をあきらめしものハ。君臣にしたく
ぬ人更ニ知ぬなるバ。死しても安あし
とあり。易の繫辭ニ原始反終故知死生之
說。ものまひなるぶ我信門ハ此

大体生死行く死を生とし日用を示して
幽深をさぐらを聖人倫を教へ道を示さ
ばこのみちあるべし式ハ志を遠くせ
ざれ憂ひなしてのみ
なり聖人の死の道を行に孔子言て
曰いまだ生を知ずハいかゝして死を知ん
とのまひていひさうもまぶらしうる
いひさうもまぶかるハあるべし死生一る
を示しまふなり道を志あるとれハ邪

目前の人倫をさく勉る様にして死ハ
のみハ後次勉ふべし
明らかなるを死もまたおくいべくせ
ばなり偖く君子謀道不謀食学也禄在其中
矣とのまひしぐくみあく乃を学ぶ君子ハ人
の道をのまひて幸ハ禄乃
幸ハ外ものなどもの人の乃をとくこと
勉らるものなり天禄をみて幸禄
なり何ぞ死中異なるあるなり死

世の快もこれを推てこんろぐし。我が門ハ
死ぬのもハ法くぬ法こと及ぐぬ。これハやむの
を得ぬ對ふるのこと。孟子曰道在爾而求諸
遠事在易而求諸難人人親其親長其長而
天下平也こと。これをくんろぐし。父母を又
母ろくく。親くく孝養をもし。弓也を弓
也ろくてうやまひ弟のたをくやうくパ人の
分もらてこれらよちこと多ぬ。まこと
ろて。おぐこと法のたあぐ。元来人のん法

世を生つこと。孝ハこと法ハ人ひなを人ハ外ハ
ひ。孝ハをくても。忠心あ乎ぬ。法ろく
ぬ而孝而弟ハ孝和の極巔ぬり。故ろくふを
率ろ事ぬ事なら。先んをく初ぐこき孔の
ハ。たぐくこと法ろく。作ぬこと孝をや
めぬバ。あ乎に法ぬ。忠孝ハ義ハ法ちく
法ぬバなくめ。日用の不作なこをうやまひ
親くきのり法くに弟書ぬ法孝膳すく
ものやりうあくり。家業を法ぬ

人々意味ありて。信実あり。低くも高きも
なまじ。無理をせずに。つくつくと。石部友の
に。まじりて。心の遠。分の過をも。事ともひ
かれぬ。くくと。平生らしなつもり
バ。何も。信をも。結ひのけく時あるべし。あるも編
国城ならば。己が。あるを。なふべし
実にかれぬ。くくなれば。なるべ。難をさけて
力行も。安楽なるものの
安楽問辯 終

皇都書肆
敷屋町二条上ル二町目
近江屋治郎吉
神田旅籠町壹丁目拾番地
三河屋幸三郎